

## 2) 安全施設の設置

水路内への転落防止や危険区域内への立入り防止等のために、新たに安全施設を設置することによる対策を行うこと。

### 【活動のねらい】

分土工や堰、水路沿いなどにおいて、フェンスや水路蓋などの安全施設がないために転倒や転落の恐れがある場合、安全施設を新たに設置することによって、施設周辺の安全確保を図ります。



安全施設がない水路

### 【活動の内容】

#### 2-1) 計画

分土工や堰、水路沿いなどにおいて、フェンスや水路蓋などの安全施設がないために転倒や転落の危険があるかどうかを目視にて点検します。また、施設を利用する方などから施設周辺の安全性について聴き取りをすることも大切です。

小型の水路には蓋を設置することが考えられます。蓋は、水路の寸法に応じたものを準備する必要がありますが、様々な種類があるので専門家やメーカー等とも相談します。

比較的大きな施設にはフェンスを設置することが考えられます。フェンスを設置するに当たって高さや延長、材質などを決定する必要があります。決定に当たっては、施設管理者や関係機関等に十分に相談することが大切です。

なお、市町村や水土里ネット等の管理する施設において工事を行う場合は、あらかじめ、市町村や水土里ネット等と協議を行い、必要となる図面等の書類、譲渡の時期、その他必要となる手続きについて指示を受けて下さい。

#### 2-2) 実施

##### ①水路蓋

コンクリート蓋を作業場所まで車などで運搬する場合は、振動により破損することが無いように布等をクッション代わりに巻いておくなど養生しておきます。

また、コンクリート蓋は重量物であるため、その取り扱いには十分に注意が必要です。蓋を運搬して設置するため専用の器具などもありますので、使用する場合は必要に応じてメーカーなどに相談します。



水路蓋の設置  
(専用器具使用)

## ②金網フェンス

まず始めにフェンス支柱を建てるための基礎が必要となります。土の上にフェンスを建てる場合は、土を掘ってコンクリート基礎を埋設した後、支柱を垂直に建てた状態で仮固定をしておきながら、支柱とコンクリート基礎との間にモルタルを流し込み支柱を固定します。コンクリートの上にフェンスを建てる場合は、必要に応じてベースプレートやアンカーといった特殊な金物を用いることで支柱を建てることができます。その後、胴縁と呼ばれる水平方向部材を上段と下段に取り付けて支柱間を連結し、ボルト、ナット等を締め付けて固定していきます。支柱と胴縁が固定した後に、緩みが生じないように金網を張っていきます。



金網フェンスの  
設置



新たに設置された  
金網フェンス

## ③フェンスの種類

フェンスには、金網以外にも格子、メッシュなど色々な種類があります。また、材質もステンレス、アルミニウムなどの種類があります。ランニングコストも考慮しフェンスのタイプを検討することが必要です。また、周辺の景観に配慮しフェンスの色も検討します。

## ④留意点

フェンスを設けた場合は、草刈りに手間がかかることとなりますので、フェンスの足下にコンクリート打設等の防草対策を施すことも検討します。

### 2-3) 確認

#### ①水路蓋

蓋設置後は目立った損傷などが無いかを目視にて点検します。また、蓋をすることによって、水路の中が直接見えなくなるので、ごみや泥などの堆積などがないか適宜点検する必要があります。

#### ②金網フェンス

フェンスの各部材間の接合部のボルト・ナットの締め忘れや支柱基礎にぐらつきなどがないかを確認します。

## 2-4) 財産

工事完了後は、財産管理台帳に必要事項を記入し、保管します。なお、財産を譲渡する場合は、施設の管理者から受けた指示に基づき、速やかに財産を譲渡します。

### 【配慮事項】

- ・作業に当たって道路を占有するときには、事前に関係機関（所轄警察署等）へ相談し、必要な手続きなどを行います。

### 【安全施設の設置】

～活動例～

#### ○転落防止柵の設置

##### ・対象施設

水路沿い（L=310m）

##### ・活動内容

水路沿いの歩道は小学校の通学路となっているが、小学生の転落事故が懸念されたため、転落防止柵（H=0.8m）を設置した。

##### ・活動時期

12月

##### ・作業者

専門業者へ委託